
新・流星のロックマン エピソード? 新たな始まり

キガ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新・流星のロックマン エピソード？ 新たな始まり

【Nコード】

N6793X

【作者名】

キガ

【あらすじ】

メテオGの脅威から約2年。中学生になった星河スバルは、平和な時を過ごしていた。しかし、FM星の反逆者たちによってその平和は壊れるのだった。さまざまな敵との戦い。「鍵」をもつ少年の謎。スバルは新たな脅威にどう立ち向かうのだろうか。

プロローグ（前書き）

どうも！ジーク改めキガです。

前に書いていた小説のネタを忘れたので書きなおしにしました。

プロローグ

メテオGの脅威から約2年後……

〈FM星〉

ズガアアアアン

豪快な爆発音とともに警報が鳴る。

〈FM星宮殿〉

ケフェウス「何事だ！」

『王！先ほど「デス・スター」どもが牢獄から脱走しました！』

ケフェウス「デス・スターだと！？バカな！あの凶悪犯罪集団が逃げたのか！？」

『やつらの力はおさえていたので壁は壊せるわけではないのですが……』

ケフェウス「すぐに追跡部隊を！」

『はっ！』

〈FM星のコスモウエーブ〉

『いたぞ！デス・スターだ！』

『逃がすな！追え！』

?1「はあゝ。ウザイハエどもがくるよー。誰か追っ払えない？」

?2「お前がやればいいだろ。」

?1「やだーメンドクセー。」

?3「私がやるう。ギガントウエーブー!!」

?3が衝撃波を出し、そこから津波がFM兵たちを襲う。

『き、きたぞー！総員撤退だー!』

兵は撤退していった。

?1「さすがホエール。今のうちに行こうぜ。」

?2「あわてるなギャブラ。地球は逃げたりしないぞ。」

ギャブラ「そうは言ってもさー。はやく暴れたいんだよー。あんただってそうだろーフェニクス。」

?4「落ち着け皆。さあスコルピオ様。地球へ。」

スコルピオ「そうだなケントラス。我らの目的は1つ。地球の中心にあるといわれる究極のエネルギー《エターナルコア》を手にし、全宇宙を支配すること。ギャブラ！アントロメダのカギの設計図はあるか？」

ギャブラ「OKOKちゃんと盗んできたぜボス。」

スコルピオ「よくやった。行くぞ皆のもの！地球へ！！」

地球に、新たな危機が訪れようとしていた。

プロローグ（後書き）

どうでしたか？

前作とだいぶ変えています。

感想待っています。

裏・プロローグ(前書き)

今回はかなりキングダムハーツのパクリだと思えます

裏・プロローグ

ピチャツ　　ピチャツ

その場所は雨が降っていて、周りはほとんどビルが建っている、夜の都会のようだが、照らしているのはビルのネオンだけだった。

ビルの窓には、ところどころ明りがついていて人が誰もいない。

そんな中、一人の黒いコートを着た少年が街の中心にある大きなビルの前の広場を歩いていた。フードをしていて顔がわからない。

そしてその人物の歩いた後の場所に黒い影が出来て、そこから人型の、体が黒く、黄色い目の怪物がヴオオオンと音を立てて出てきた。

タツ・・・タツ・・・タツ

雨がやみ、黒コートの少年は広場の中心で足をとめた。そこには・

《ヴオオオン》

影の怪物がたくさんいて、彼を囲んでいた。

黒コートの少年「・・・・・・・・！！！」

少年は少し腰を低くし、左手をまるで剣を抜くかのように右腰のほうにやり、

《チッ!》

白い、不思議な形をして、チェーンがついている剣をどこからともなく出した。そして右手も左手と同じように左腰にやり、

《チッ!》

黒く、不思議な形をして、チェーンがついている剣をどこからともなく取り出し、

《ヒュヒュヒュガギン! ヴウン》

自分の前で回してXをつくり、腰のあたりまで振り下ろして構えた。それと同時に影が襲ってきたが、華麗な二刀流の剣技で次々を消していく。

《シュン! ファギユイン! ザシュ!》

ふと、少年はビルの上を見た。そこには銀色の髪で、黒い帯で目を隠している、少年と同じ黒いコートをした人物が立っていた。

黒コートの少年「……………」

バツ! タツ! トットットットット……

少年はジャンプしてビルの入り口の屋根にのり、そこからさらに飛び上がりビルの壁の真ん中を走り、上がって行った。そして

どこかの家

ガバツ！（誰かがベットで起きる音。）

???「またあの黒コートの夢か……。なんで同じの見るんだろ？それに前は続きもあったのに……」

パジャマ姿の少年はベットから出て着替えた。そんな時に彼のハンターV.Gが鳴った。

『おい！ケント！電話だぞ！』

彼のウイザードが言う。ケントと呼ばれた少年はすぐにハンターを操作する。

ケント「そんなに慌てなくたっていいじゃないかジーク。こつちは起きたばかりなんだからね。えーとダイからだな。ホイッと。」

《ピッ》

ダイ『起きてるカー、空影そらかげケントー。』

電話の相手は銀色の髪を後ろに束ねているケントの友達だった。

ケント「起きてなかったら電話に出ないだろー。何の用？」

ダイ『おいおい忘れたのか？明日から中学行くんだから

「今日めいいっぱい遊ぶんだろ？」 覚えてるんなら速く来いよ。』

ケント「わかってるって。いつもの場所に集合だろ？ヒロネも来るんだよな？」

ダイ『少し遅れるってさ。飯食ったら速く来いよ。それじゃあな。』

ケント「ああ、」

《ピッ》

ケント「・・・それにしてもあの夢はなんだろ？わからないことだらけだけど唯一知ってるのは・・・」

《シュパァン！》

ケントはどこからともなくディズニー代表のキャラのチェーンをつ

いた鍵型の剣を出した。

ケント「……あの白と黒の剣が「キープレード」だっていうことぐらいかな。見た目は全然違うけど……」

ジーク『だれと話しているんだ？』

ケントのウィザード『ジーク』が話しかけてきた。

ケント「独り言だよ独り言！さてと、早く準備しよつと。」

《パシユン》

ケントはキープレードをしまつと食事の準備を始めた。

ケント「明日が楽しみだなあ。どんな人と会えるんだろ？コダマ中。」

「

空影ケントは期待をしながら料理の準備を始めた。

裏・プロローグ（後書き）

パクリすぎですよね？キングダムハーツを知らない人は読みにくい
と思います。

許してください。

さて、ケントくんはこの物語の「もう一人の主人公」です。

以上！紹介終わり！

感想待ってます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6793x/>

新・流星のロックマン エピソード? 新たな始まり

2011年11月11日04時20分発行